

1. 学校独自の分析

今年度は、昨年度と同じ質問項目で学校評価を実施しました。また、昨年度に変更した評価方法を、教職員の自己評価については用いることにしました。そして、この評価方法をしばらく変更せずに用いることにより、今後の推移を観察し、改善に役立てたいと考えています。ここで、もう一度評価方法を記しておきます。質問項目ごとに、「4 ほぼ当てはまる」の選択人数に10点、「3 やや当てはまる」の選択人数に6点、「2 あまり当てはまらない」の選択人数に4点、「1 当てはまらない」の選択人数に0点を掛け、その項目の合計点がすべての回答人数に10点を掛けた合計点に占める割合が何%あったかで評価するようにしています。割合と評価は、80%以上をA評価、60%以上80%未満をB評価、40%以上60%未満をC評価、40%未満をD評価とし、従来の評価方法に比べ、厳しめの評価となっています。

今年度の教職員の自己評価をみますと、学校経営の領域がすべてBとなっています。これは、本校の教職員が生徒の生きる力や学力をさらに上げる努力をする必要があるという意味の表れだと分析しています。理想と現実の両面から逃げることなく、本校の課題を少しずつでも改善していく意欲を本校教職員は持ち合わせています。全員で協力しながら、この領域の評価が上がるように努めていきたいと思っています。また、特別活動の領域の評価が低いことも課題の1つです。生徒数の減少も影響していると思いますが、意欲的な生徒も多く在籍しています。そこで、生徒会活動や部活動を現状より、少しでも活発になるような方策を考え、改善に努めたいと考えています。

また、生徒全体のアンケート項目で「私は安曇川高校に入学してよかったと思う」という項目がB評価になっています。母数が多くないため、B評価からA評価に比較的人数で変更する状況ですが、少し残念な気もしています。しかし、この表には示されていませんが、現在第2学年の生徒が「私は安曇川高校に入学してよかったと思う」割合は、第1学年の頃よりも増加しています。このように、学年が上がるにつれ入学した頃よりも安曇川高校に対して愛着を持つ生徒が増加していることは大変喜ばしいことだと思っています。一方、「私は授業でわからないときは、質問をしたり相談をしている」という項目がB評価であることは大きな課題だと感じています。生徒の様子をこれまで以上にきめ細かく観察すると同時に、生徒の学習意欲をいかにして向上させていくかも考えていかねばなりません。引き続き、生徒の興味や関心を引き出すための授業改善に加えて、科目履修に必要な内容をしっかりと学習する態度を作り上げる地道な指導を行っていきます。

2. 次年度に向けての改善策

【学校経営】

- ・特別活動への参加を促し、特に協働する力の育成に力を注ぎます。
- ・令和7年度も様々な方法で本校の魅力を校内外に発信し、在校生、中学生とその保護者、地域の方に伝えていきます。

【学習指導】

- ・授業で質問や相談をしやすい環境作りに励みます。また、授業に生徒が主体的・協働的に参加できるように粘り強く指導していきます。
- ・一人一台端末の有効性を生かせるような授業を工夫して作り上げていきます。

【生徒指導】

- ・生徒指導上の諸問題を解決するため、教職員が連携を密にし、きめ細かな指導体制づくりを行います。
- ・いじめを重大事案として捉え、早期発見・解決に努め、ガイドラインに基づき組織的な対応を行います。
- ・他人への不用意な発言（SNS上も含む）をなくすことを伝える機会を増やし、他者への配慮や優しさを育てることを重点課題とします。

【進路指導】

- ・進学希望者に対して継続的な補習を行い、指定校だけに頼らない、あくまで第1志望にこだわる生徒に対しての支援を充実させます。

【特別活動】

- ・体育祭・文化祭行事の時期や内容を変更し、より充実した行事になるように生徒と共に変更していき、生徒会活動全般の活性化を図っていきます。
- ・生徒が部活動に魅力を感じ、部活動に参加する人数が少しでも増加するよう、新入生への勧誘の方法から見直します。
- ・地域貢献活動・ボランティア活動などへの積極的な参加を促進していきます。

【学校図書館】

- ・図書館情報の提供に努め、生徒が図書とふれ合う取組を企画し図書館の利用率を高めます。

【保健・安全指導】

- ・防災に対する意識をより一層高め、不測の事態が起こったときに適切な行動がとれるよう取り組んでいきます。

【人権教育】

- ・教育相談体制を充実させ生徒個々のニーズに応じた支援に努めていきます。
- ・基本的人権を尊重し、他者を認めつつ自分自身を大切にする人権感覚を高めます。
- ・生徒理解に努め「いじめを許さない学校づくり」を推進していきます。

【環境教育】

- ・掃除の分担を見直し、美化委員会を活用し、隅々まで掃除が行き届くような体制を作ります。
- ・日々の清掃活動を通し、美化意識の向上を図った上、今年度を実施した有志による清掃活動を次年度も実施し、毎年の行事として定着させることで母校への愛着の心を育てます。

【その他学校の取り組み】

- ・保護者との連携を密にし、情報交流を積極的行います。
- ・学年通信をHPにアップする等、HPの充実に努めます。